



仙石原すすき草原山焼き

箱根の代表的な景勝地である仙石原すすき草原は、未来に残したい草原の里100選やかながわの景勝50選、かながわの花の名所100選にも選ばれ、多くの観光客に親しまれている貴重な地域となっております。

昔からの景観であるすすき草原を維持するため、その管理方法検討の目的で、昭和63年度から、かん木の伐採、刈り取り、火入れを含む実験調査を行っており、本年も3月18日(月)に火入れを実施しました。

自然に配慮した生活

町内のほぼ全域が国立公園であることを理解し、自然環境に配慮した生活・活動を行う。

森林の多面的機能の確保と森林整備の推進

森林における生物多様性の保全や、自然環境の調整等の多面的機能の保全に努める。

自然環境の保全

自然を保護すべき地区について、引き続き国・神奈川県と連携しながら保全の推進を図る。



「パチパチ」という音を立てて激しく燃え広がり、一帯の枯れススキを焼き尽くします。これを毎年行うことで、外来植物の侵入を防ぎ、ススキ植生を護ることに繋がります。また、火は山の下側から点火せず、山の上側から点火します。下側から点火してしまうと火の勢いが凄く、すすき草原上方の国有林にまで延焼してしまう可能性があるためです。

きれいに焼けた草原は、いつもとは全く違った光景が広がりますが、これが仙石原すすき草原を未来に残していくために必要な対策です。

5月頃にはススキの新芽を見ることができ、夏には青々とした草原が広がります。

そして秋には銀色の穂が風に揺れ、10～11月にかけて山裾が徐々に黄金色から銀色に染まって行くのがゆっくりと楽しめます。

